
ギャルゲーイベント～お料理編～

オウギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャルゲーイベント～お料理編～

【著者名】

N4682D

【作者名】

オウギ

【あらすじ】

ギャルゲーでよくある料理のイベントについて書いてみました。
面白かったら感想ください。

(前書き)

この前、友達から聞いたギャグゲーの話を自分風にアレンジしてみました。

よくこんな風にゲームだと料理が下手というのが多いらしいですね。
今度は、どのような場面を書こうか悩んでます。

書いて欲しい場面などありましたら書き込んでください。
もちろん感想もおねがいします。

今は、家庭科の調理実習中。

俺は裕一。里原 裕一。

「そつちの野菜切ってくれ

今は、各グループに分かれて料理の中でも最も簡単に作れるカレーを作っている。

でも、俺はカレーにうるさい。

簡単に野菜を切って、鍋に入れて、ルーと一緒に煮込むだけではないそこから里原家直伝の特性スパイスを入れ・・・おっと、こっからは企業秘密だ！！

「」の野菜ってどう切るんだ？」

今、俺に聞いてきたのは俺の親友で瑞樹。

顔はムカつくくらい美形なのに軟派で3日に1度の割合で上級生と下級生に告られる。

(同級生には性格を知られているのであまり告られない)

「その野菜は・・・」

「ねえ、裕一」

今、俺に話しかけてきたのは俺の幼馴染で未来。

こいつは今時ギャルゲーぐらいでしか言われないがうちの高校のア

イドルって呼ばれてる。

でも、マジでこいつは可愛いと思つ。

「なんだ？」

「さつきカレーできたんだけど食べてられない？」

そう言つて、未来は後ろに隠していた物を取り出した。
それは、カレー（？）だった。

なぜカレーの後ろに？がついているかというと色がおかしい。
本来カレーはグリーンカレーなどもあるが茶色が普通だと思つ。
しかし、未来がもつっていたのは紫だった。

「隠し味入れてみたんだけど分かる？」

何入れたああああああああああああ？

無理があるだろ、じうせつたら茶色が紫に変化するの？

そんで、なんか今は夏なのに紫色の湯気でてるし。
俺の本能がこれは食べてはいけないと告げている。
かわいそうだが、ここは断りづ。俺のためにも・・・。

「悪いけど、今お・・・」

「食べてくれないの？」

未来は少し半泣きになつてこいつを見てる、しかも上目づかい。
ごめん、俺の体。もつてくれ。

俺は一気にカレーを口に流し込んだ。

・・・・・

「ゴフッ！！」

そこで俺の視界はブラックアウトした。

「・・・・ん、ここは？」

俺は目を覚ますと保健室にいた。1人で。
なあ、未来待つてくれてもいいんじゃないかな？

「俺・・あんなにがんばったのにな・・・・。」

俺の目から一滴の涙が零れ落ちた。

その後、未来は瑞樹と付き合つてゐる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4682d/>

ギャルゲーイベント～お料理編～

2010年10月16日08時01分発行